

# あぢさゐは水色月はほそき鎌

藤田湘子

紫陽花にはいろんな色がある。思いつくだけでも濃い紫色、淡い水色、紅色、薄いピンク、白。形も大きな球形から額紫陽花まで実に多彩である。月も新月から上弦、満月、下弦、いろんな形を楽しめる。

その中で水色のあじさいと三日月の取り合わせは、繊細で抒情的な湘子ならではと思う。一番星が見える頃、空にはまだ青さが残り、夕星に寄り添うように月があらわれる。あの美しい空には、やっぱり水色のあじさいが似合う。

十六歳の少年湘子は、小田原城跡の堀端の満月と桜の蕾を見て俳句を志した。月はずっと湘子の詩<sup>うた</sup>ごころを誘うものであった、と思う。

1686年 (558.06.14作) 第六句集『一個』 鑑賞・野本京